



【第46期准看護師課程戴帽式】

令和3年10月1日

令和3年10月1日（金）自衛隊札幌病院准看護学院（学院長：高橋1佐）は、北部方面総監部医務官のご臨席を賜り、第46期准看護師課程の戴帽式を挙行了した。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全員マスク着用、換気をしながら行うなど感染予防に十分配慮した形での式となった。厳粛な雰囲気の中執り行われ、戴帽の儀において純白の看護衣に身を包んだ25名（男性：15名、女性10名）は教務班長（米川3佐）からナースキャップを戴いた。学生長（成瀬士長）指揮の下、衛生科精神を唱和、医療従事者として過酷で困難な状況においても、人道に基づく愛情をもって、「骨肉の至情と挺身奉仕の精神に徹し、勇敢かつ沈着冷静に任務に邁進する。」と誓いをたてた。

病院長（鈴木陸将）は「これから臨地実習が始まり看護する中で、生命の重さを感じる心と愛情に満ちた豊かな人間性とコミュニケーション能力を高めて欲しい。患者を思いやる気持ちを持ち、身体と心を癒せる看護者となるために日々何をすべきか考え、「積極的に学ぶ努力と、いかなる状況においても大切な仲間を救う役割を胸に秘め、職務に対する尊き使命感のもと、心身を磨き技術を身に付け、人間力の強化に努めてもらいたい。」と訓示した。

准看護学院長（高橋1佐）は「努力を続けること」、「責任感を持つこと」の2点を要望するとともに、「諸官一人一人が目標に向かってコツコツと毎日、努力を積み重ねていくことは簡単ではない。是非とも、今日の自分より明日の自分に成長がみられるよう謙虚に努力を続けることができる人になってもらいたい。46期生25名がしっかり融和団結し、1年半後には、国民の負託に応えるという決意とともに、立派な准看護師たる自衛官になれるよう大いに期待します。」と式辞を述べた。北部方面総監部医務官（小林1佐）からは「現場での実習は、これまで、座学でしか学ぶことができなかったことを、身をもって体験し、自分のものとする絶好の機会です。今後の教育における経験のすべてが、諸官の今後の部隊や病院での勤務における貴重な宝となる。志高く前向きに、そして真摯に、医療の現場に向き合ってもらいたい。」と祝辞を賜った。

学生は医療従事者としての使命及び責任の重さを改めて自覚し、真に役立つ准看護師たる自衛官を目指すことを誓った。



戴帽の儀（男性自衛官）



戴帽の儀（女性自衛官）



衛生科精神唱和



札幌病院長（鈴木陸将）訓示



准看護学院長（高橋1佐）式辞



北部方面総監部医務官（小林1佐）祝辞